

昨年十二月、日本公開されたディズニーアニメ映画「ティンカー・ベル」。同作品でキャラクターデザインを手掛けたのが、東温市出身のキャラクターデザイナー野谷りつこさん(五三)。米国のハリウッドにある「ディズニー・トゥーン・スタジオ」で働く唯一の日本人として活躍している。このほど帰郷した野谷さんに、作品へのこだわりなどを聞いた。

## ディズニー映画「ティンカー・ベル」 キャラクターデザイナー

野谷りつこさん(東温出身)

ティンカー・ベルは、ディズニーを代表するファンタジーストーリー「ピーター・パン」(一九五三年)に初めて登場した。キュートな妖精で、

### イメージ崩さず新しさを演出

# 渡米17年第一線で輝く

半世紀以上たった今も、「ティンク」の愛称で親しまれている。本作は四部作の第一弾で、ピーター・パンと出会う前のティンクにスポットを当て、妖精の谷を舞台に活躍する姿を描く。

デザインする上で、最もこだわったのはアーモンド形の目。「彼女のチャームポイントなので一番気を使った」と野谷さん。立体映像の3D映画で、ティンクが初めて言葉を話すため、「しゃべっても違和感がないよう、口の位置も調整した」。人気のキャラクター

ンを完成させ、「イメージ通りに動いてくれた時、この仕事をやって良かったと実感する」。

アニメとの出会いは小学生の時。運命的にも、初めて劇場で見た映画「ピーター・パン」に心を奪われた。東温高校を卒業後、松山デザイン専門学校(松山市)に進学。デザインを学びながら、同校講師で、手塚治虫さんの「虫プロ」

今年で渡米十七年。「ムラン2」「パンピ2」など二十四作品に携わった。ハリウッドでの仕事は、意外にも「苦労した記憶がない」と野谷さん。国籍や年齢は関係なく、「仕事のみで評価されるので、入社当初から違和感なく溶け込めた」という。

帰郷は二年ぶり。日本に戻るたび、「キャラクターづくりの参考に」と、人形作家の写真集などを資料として買い込んでいる。「愛媛は、人口の割に映画館が多い場所。生まれ育ったこの環境が助けになって、もの作りの仕事に進めたのかなと思っています」



「後悔しないよう、一つ一つの作品に力を出し切ることが、次の仕事につながる」と語る野谷さん。松山デザイン専門学校